

## 富里市まちづくり市民会議（第6回）の記録（要約）

令和元年12月26日（木）、午後7時より、五十嵐市長、石橋副市長を招き、最終の第6回富里市まちづくり市民会議が開催され、提言書の発表及び提出をおこないました。

### ★五十嵐市長あいさつ



#### （あいさつ要旨）

皆様におかれましては富里の「まちづくり」について長期間に渡りご協議いただき、本日提言書を提出いただけたということで大変うれしく思っておりますとともに、心から感謝を申し上げます。

総合計画を策定していくにあたり、皆様からの提言がいただけることを本当に心強く思っています。

2020年はオリパラ開催年であり日本にとって「節目の年」となり、富里市にとっては「変わる年」であると思っております。

総合計画策定においては皆様からの提言書を大いに活用させていただき、富里市のまちづくりを加速させていきたいと思っております。

### ★伊藤座長あいさつ

私たち14名は、半年間で6回の会議を重ね、ライフステージごとの幸せや、私たちにとってかけがえのない富里には何が必要なのかを真剣に考えてきました。

その中で、世代や分野を越えた繋がりが非常に重要であることを改めて認識しました。

この提言書は市民目線の自由な発想が沢山詰まったものとなっており、簡単にはいかないものもあると思いますが、総合計画策定に少しでも役立てば幸いに思います。

最後に、アドバイザーとしての的確な助言をいただいた千葉大学の関谷先生や、関係者の皆様に心からお礼を申し上げます。



## ★提言書の発表



提言書の発表は、小川副座長がおこないました。

まちづくり市民会議のこれまでの経緯や、10年後に望むまちの姿を実現していくために対応しなければならない地域課題に向けて、5つの政策提言についてプロジェクターを使用して、わかりやすく説明しました。



## ★関谷先生からの講評

### (要旨)

皆さん、長い期間議論を重ねて本日提言書の提出までたどり着いた訳ですが、本当にお疲れ様でした。

提言書の発表を聞いていて、今まで皆さんがしてきた議論が、色々な表現で盛り込まれた内容となっており、安定性のあるものに仕上がっていると感じました。

提言書の中にも出てきますが、「つながり」ということは非常に重要になってくると思います。

富里市の中に潜在的な力として埋もれている「人の力」「金の力」「物の力」をもっと掘り起こして、それらを掛け合わせて繋げていくことが、これからのまちづくりに求められるポイントになります。



市民が作成したこの提言書の内容を、これから本格的に策定作業に入っていく計画づくりに、どの様に組み込んでいけるのか期待します。

市民会議でのワークショップの中でも、「時間が足りない」「もっと色々と協議したい」という意見が出ていましたが、総合計画も作って終わりではなく、その後も市民が関わっていける計画にしてほしいと思います。

### ★提言書の提出

伊藤座長から五十嵐市長へ提言書の提出が行われました。

市長から改めて感謝の言葉がかけられました。



★会議終了後、市長・副市長を交え集合写真を撮影しました。



※第6回会議当日は、御事情により5名の委員が欠席されましたが、14名の委員の皆さん本当にお疲れ様でした。